

表 3-1 屋内歩行に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果
-開始時と訪問指導終了時の比較

終了時 開始時	0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 這うな ど	4: 行って いない	計
0: 普遍的自立	17名 100%	0名	0名	0名	0名	17名 100%
1: 限定的自立	0	261 100%	0	0	0	261 100%
2: 部分介助	0	10 15.9%	53 84.1%	0	0	63 100%
3: 這うなど	0	1 9.1%	1 9.1%	9 81.8%	0	11 100%
4: 行ってない	0	3 12.0%	4 16.0%	1 4.0%	17 68.0%	25 100%
計	17 4.5%	275 72.9%	58 15.4%	10 2.7%	17 4.5%	377 100%

表 3-2 屋内歩行に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果
-開始時と最高時の比較

最高時 開始時	0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 這うな ど	4: 行って いない	計
0: 普遍的自立	17名 100%	0名	0名	0名	0名	17名 100%
1: 限定的自立	29 11.1%	232 88.9%	0	0	0	261 100%
2: 部分介助	0	19 30.2%	44 69.8%	0	0	63 100%
3: 這うなど	0	1 9.1%	3 27.3%	7 63.6%	0	11 100%
4: 行ってない	0	5 20.0%	5 20.0%	1 4.0%	14 56.0%	25 100%
計	46 12.2%	257 68.2%	52 13.8%	8 2.1%	14 3.7%	377 100%

表 3-3 屋内歩行に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果のまとめ

開始 自立度 人数		0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 這うな ど	4: 行って いない	改善率	
		17名	261名	63名	11名	25名	改善者/ 非自立 者 (N=99)	改善者/ 限定的自 立以下 (N=360)
自立度	最高時 b		29名 11.1%	19名 30.2%	3名 27.3%	11名 44.0%	33名 33.3%	62名 17.2%
	(訪問終了 時) a		0 0.0%	10 15.9%	1 9.1%	8 32.0%	19 19.2%	19 5.3%
	(訪問後改 善) b-a		29 11.1%	9 14.3%	2 18.2%	9 12.0%	14 14.1%	43 11.9%
質的向上	最高時		65 24.9%	16 25.4%			16 16.2%	81 22.5%
計	最高時		94 36.0%	35 55.6%	3 27.3%	11 44.0%	49 49.5%	143 39.7%

歩行補助具の種類は、四脚杖が7名、四脚杖が9名、シルバーカーが3名であった。

(3) 排泄

排泄について、開始時と訪問指導終了時の変化をみたものが表4-1、開始時と最高時の変化が表4-2である。またこれらを開始時の自立度毎に質的向上も含めてまとめたものが表4-3である。

全体としての改善率を表4-3で見ると、開始時非自立者では訪問指導終了までに105名中22名(21.0%)が改善していたが、その後更に15名(14.3%)が向上し、最高時には37名(35.2%)が向上していた。

また普遍的自立には到っていない限定的自立以下の人370名中でみると、訪問終了時点での向上者は22名(5.9%)であったが、更にその後25名(6.8%)が向上し、最高時には計47名(12.7%)で自立度が向上していた。

次に、開始時の自立度毎にみると「限定的自立」であった者は、表4-1に示すように訪問指導終了時点には1例も向上していなかったが、その後最高時には表4-2に示すように向上者が10名(3.8%)いた。すなわち、限定的自立から普遍的自立に向上するには、訪問指導終了後の一定の期間を要していた。これは限定的自立者には短期間の適切な支援を行えば、その後は直接指導・訓練を実施しなくとも、普遍的自立にまで向上できることを示している。

「オムツ・バルーン留置」者では、26名中20名(76.9%)が向上しており、その内訳をみると、限定的自立に向上したものの5名(19.2%)、部分介助14名(53.8%)と顕著な向上が認められた。

また開始時「部分介助」者75名中16名(21.3%)が自立している。両者とも訪問指導終了時には既に著しい改善が認められている(その後低下していないことを確認している)。

また自立度としては向上していない者について質的向上をみると、表4-3にみるように非自立者では4名(3.8%)、限定的自立以下の者では9例(2.4%)が向上していた。

自立度向上者と質的向上者をあわせると、非自立者では39.0%、限定的自立以下の者では15.1%で向上していた。

排泄に対する個別的な具体的働きかけは74名に実施した。

その内容は、つたい歩行や、トイレ動作時のよりかかりやもたれの指導が53名(71.6%)、ポータブルトイレの配置、使い方についての指導が14名(18.9%)、外出先でのトイレの使い方を指導し、普遍的自立に向けての働きかけをした場合が7名(9.5%)であった。

4) 整容

整容について、開始時と訪問指導終了時の変化をみたものが表5-1、開始時と最高時の変化が表5-2である。またこれらを開始時の自立度毎に活動の質的向上も含めてまとめたものが表5-3である。

全体としての改善率を表5-3で見ると、開始時非自立者では訪問指導終了までに125名中17名(13.6%)が改善していたが、その後更に9名(7.2%)が向上し、最高時には28名(22.4%)が向上していた。

表 4-1 排泄に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果
-開始時と訪問指導終了時の比較

開始時 \ 終了時	0: 普遍的自立	1: 限定的自立	2: 部分介助	3: 全介助	4: オムツ・パルーン留置	計
0: 普遍的自立	7名 100%	0名	0名	0名	0名	7名 100%
1: 限定的自立	0	265 100%	0	0	0	265 100%
2: 部分介助	0	8 10.7%	67 89.3%	0	0	75 100%
3: 全介助	0	0	1 25.0%	3 75.0%	0	4 100%
4: オムツ・パルーン留置	0	4 15.4%	9 34.6%	0	13 50.0%	26 100%
計	7 1.9%	277 73.5%	77 20.4%	3 0.8%	13 3.4%	377 100%

表 4-2 排泄に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果
-開始時と最高時の比較

開始時 \ 最高時	0: 普遍的自立	1: 限定的自立	2: 部分介助	3: 全介助	4: オムツ・パルーン留置	計
0: 普遍的自立	7名 100%	0名	0名	0名	0名	7名 100%
1: 限定的自立	10 3.8%	255 96.2%	0	0	0	265 100%
2: 部分介助	0	16 21.3%	59 78.7%	0	0	75 100%
3: 全介助	0	1 25.0%	1 25.0%	2 50.0%	0	4 100%
4: オムツ・パルーン留置	0	5 19.2%	14 53.8%	1 3.8%	6 23.1%	26 100%
計	17 4.5%	277 73.5%	74 19.6%	3 0.8%	6 1.6%	377 100%

表 4-3 排泄に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果のまとめ

開始時 \ 自立度		人数					改善率	
		0: 普遍的自立	1: 限定的自立	2: 部分介助	3: 全介助	4: オムツ・パルーン留置	改善者/非自立者 2-4 (N=105)	改善者/限定的自立以下1-4 (N=370)
自立度	開始時 a	7名	265名	75名	4名	26名		
	最高時 b		10名 3.8%	16名 21.3%	1名 25.0%	20名 76.9%	37名 35.2%	47名 12.7%
	(訪問終了時) a		0 0.0%	8 10.7%	1 25.0%	13 50.0%	22 21.0%	22 5.9%
質的向上	(訪問後改善) b-a		10 3.8%	8 10.7%	0 0.0%	8 26.9%	15 14.3%	25 6.8%
計	最高時		15 5.7%	20 26.7%	1 2.5%	20 76.9%	41 39.0%	56 15.1%

また普遍的自立には到っていない限定的自立以下の人 373 名中でみると、訪問終了時点で 17 名 (4.6%) であったが、更にその後 13 名 (3.5%) が向上し、最高時には計 30 名 (8.0%) で自立度が向上していた。

次に、開始時の自立度毎にみると「限定的自立」であった者は、表 5-1 に示すように訪問指導終了時点には 1 例も向上していなかったが、その後最高時には表 5-2 に示すように向上者が 4 名 (1.6%) いた。すなわち、限定的自立から普遍的自立に向上するには、訪問指導終了後の一定の期間を要していた。これは限定的自立者には短期間の適切な支援を行なえば、その後は直接指導・訓練を実施しなくとも、普遍的自立にまで向上できることを示している。

「行なっていなかった」者では、15 名中 5 名 (33.3%) が向上しており、その内訳をみると、限定的自立に向上したものが 2 名 (13.3%) と向上が認められた。また開始時「部分介助」者でも 92 名中 19 名 (20.7%) が自立している。両者とも訪問指導終了時には既に著しい改善が認められている (その後低下していないことを確認している)。

また自立度としては向上していない者について質的向上をみると、表 5-3 に示すように非自立者で 1.6%、限定的自立以下の者では 1.6% が向上していた。

自立度向上者と質的向上者をあわせると、非自立者では 22.4%、限定的自立以下の者では 9.7% で向上していた。

(5) 入浴

入浴について、開始時と訪問指導終了時の変化をみたものが表 6-1、開始時と最高

時の変化が表 6-2 である。またこれらを活動の質的向上も含めて開始時の自立度毎にまとめたものが表 6-3 である。

全体としての改善率を表 6-3 でみると、開始時非自立者では訪問指導終了までに 238 名中 38 名 (16.0%) が改善していたが、その後更に 19 名 (8.0%) が向上し、最高時には 57 名 (23.9%) が向上していた。

また普遍的自立には到っていない限定的自立以下の人 374 名中でみると、訪問終了時点で 38 名 (10.2%) であったが、更にその後 20 名 (5.3%) が向上し、最高時には計 58 名 (15.5%) で自立度が向上していた。次に、開始時の自立度毎にみると「限定的自立」であった者は、表 6-1 に示すように訪問指導終了時点には 1 例も向上していなかったが、その後最高時には表 6-2 に示すように向上者が 1 名 (0.7%) いた。すなわち、限定的自立から普遍的自立に向上するには、訪問指導終了後の一定の期間を要していた。これは限定的自立者には短期間の適切な支援を行なえば、その後は直接指導・訓練を実施しなくとも、普遍的自立にまで向上できることを示している。

「行なっていなかった」者では、85 名中 34 名 (43.4%) が向上しており、その内訳をみると、限定的自立に向上したものが 15 名 (17.6%)、部分介助が 16 名 (18.8%) と顕著な向上が認められた。

また開始時「部分介助」者でも 112 名中 16 名 (14.3%) が自立している。両者とも訪問指導終了時には既に著しい改善が認められている (その後低下していないことを確認している)。

自立度としては向上していない者につい

表5-1 整容に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果

-開始時と訪問指導終了時の比較

終了時 開始時	0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	計
0: 普遍的自立	4名 100%	0名	0名	0名	0名	4名 100%
1: 限定的自立	0	247 99.6%	0	1 0.4%	0	248 100%
2: 部分介助	0	10 10.9%	82 89.1%	0	0	92 100%
3: 全介助	0	0	3 16.7%	15 83.3%	0	18 100%
4: 行ってない	0	1 6.7%	3 20.0%	0	11 73.3%	15 100%
計	4 1.1%	258 68.4%	88 23.3%	16 4.2%	11 2.9%	377 100%

表5-2 整容に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果

-開始時と最高時の比較

最高時 開始時	0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	計
0: 普遍的自立	4名 100%	0名	0名	0名	0名	4名 100%
1: 限定的自立	4 1.6%	243 98.0%	0	1 0.4%	0	248 100%
2: 部分介助	1 1.1%	18 19.6%	73 79.3%	0	0	92 100%
3: 全介助	0	0	3 16.7%	15 83.3%	0	18 100%
4: 行ってない	0	2 13.3%	2 13.3%	1 6.7%	10 66.7%	15 100%
計	9 2.4%	263 69.8%	78 20.7%	17 4.5%	10 2.7%	377 100%

表5-3 整容に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果のまとめ

開始時 自立度 人数		0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	改善率	
		4名	248名	92名	18名	15名	改善者/ 非自立 者 (N=125)	改善者/ 限定的 自立以 下 (N=373)
自立度	最高時 b		4名 1.6%	19名 20.7%	3名 16.7%	5名 33.3%	26名 20.8%	30名 8.0%
	(訪問終了 時) a		0 0.0%	10 10.9%	3 16.7%	4 26.7%	17 13.6%	17 4.6%
	(訪問後改 善) b-a		4 1.6%	9 9.8%	0 0.0%	1 0.7%	9 7.2%	13 3.5%
質的向上	最高時		4 1.6%	2 2.2%			2 1.6%	6 1.6%
計	最高時		8 3.2%	21 22.8%	3 16.7%	5 33.3%	28 22.4%	36 9.7%

て質的向上をみると、表 6-3 にみるように非自立者で 5.5%、限定的自立以下の者では 5.6%が向上していた。

自立度向上者と質的向上者をあわせると、非自立者では 29.4%、限定的自立以下の者では 21.1%で向上していた。

(6) 家事（調理）

以後、家事については全員についてではなく、古くとも 5 年前までは当該の家事を行っていた人の群と、1 年前までは行っていた人の群とを対象として検討した。

調理についての判定基準は、特に制限なく様々な調理をしている場合を「普遍的自立」とし、それに対して限られたものしかつくりえない場合を「限定的自立」とした。

i) 5 年前までの実施者

まず、5 年前までの実施者について、開始時と訪問指導終了時の変化をみたものが表 7-1、開始時と最高時の変化が表 7-2 である。またこれらを開始時の自立度毎にまとめたものが表 7-3 である。

まず全体としての改善率を表 7-3 でみると、訪問指導終了までに非自立者 148 名中 33 名 (22.3%) が改善しており、更に質的向上者 4 名 (2.7%) を含めると最高時には 37 名 (25.0%) が向上していた。

また普遍的自立をしていない限定的自立以下の人 196 名中では訪問終了時点で 23 名 (11.7%) が向上しており、更に質的向上者 10 名 (5.1%) を含めると最高時には 43 名 (21.9%) が向上していた。

次に、開始時の自立度毎に、自立度の改善率をみると「限定的自立」であった者 (48 名) では、表 7-1 に示すように訪問指導終了時点でも、また表 7-2 で示すように最高

時点でも 1 例も向上していなかった。

開始時「部分介助」者では 55 名中 8 名 (14.5%) が「限定的自立」に自立していた。訪問指導終了時には既に著しい改善が認められている（その後低下していないことは確認している）。

「行なっていなかった」者では、93 名中 25 名 (26.9%) が向上しており、その内訳をみると、限定的自立に向上したものが 9 名 (9.7%)、部分介助（一部実施）が 16 名 (17.2%) であった。

ii) 1 年前までの実施者

次に、1 年前まで実施者について開始時と訪問指導終了時の変化をみたものが表 8-1、開始時と最高時の変化が表 8-2 である。またこれらを開始時の自立度毎にまとめたものが表 8-3 である。

まず全体としての改善率を表 8-3 でみると、訪問指導終了までに非自立者 107 名中 20 名 (18.7%) が改善していたが、更に質的向上者 4 名 (3.7%) を含めると最高時には 34 名 (31.8%) が向上していた。

また普遍的自立をしていない限定的自立以下の人 155 名中では訪問終了時点で 20 名 (12.9%) が向上しており、更に質的向上者 8 名 (5.2%) を含めると最高時には 38 名 (24.5%) が向上していた。

次に、開始時の自立度毎に、自立度の改善率をみると「限定的自立」であった者 (48 名) では、表 8-1 に示すように訪問指導終了時点でも、また表 8-2 で示すように最高時点でも 1 例も向上していなかった。

開始時「部分介助」者では 54 名中 6 名 (11.1%) が「限定的自立」に自立してい

表 6-1 入浴に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果
-開始時と訪問指導終了時の比較

終了時 開始時	0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	計
0: 普遍的自立	3名 100%	0名	0名	0名	0名	3名 100%
1: 限定的自立	0	136 100%	0	0	0	136 100%
2: 部分介助	0	11 9.8%	101 90.2%	0	0	112 100%
3: 全介助	0	1 2.4%	3 7.3%	37 90.2%	0	41 100%
4: 行ってない	0	10 11.8%	12 14.1%	2 2.4%	61 71.8%	85 100%
計	3 0.8%	158 41.9%	116 30.8%	39 10.3%	61 16.2%	377 100%

表 6-2 入浴に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果
-開始時と最高時の比

最高時 開始時	0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	計
0: 普遍的自立	3名 100%	0名	0名	0名	0名	3名 100%
1: 限定的自立	1 0.7%	135 99.3%	0	0	0	136 100%
2: 部分介助	0	16 14.3%	96 85.7%	0	0	112 100%
3: 全介助	0	1 2.4%	7 17.1%	33 80.5%	0	41 100%
4: 行ってない	0	15 17.6%	16 18.8%	3 3.5%	51 60.0%	85 100%
計	4 1.1%	167 44.3%	119 31.6%	36 9.5%	51 13.5%	377 100%

表 6-3 入浴に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果のまとめ

開始時 自立度 人数		0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	改善率	
		3名	136名	112名	41名	85名	改善者/ 非自立 者 2-4 (N=238)	改善者/ 限定的 自立以 下 1-4 (N=374)
自立度	最高時 b		1名 0.7%	16名 14.3%	7名 17.1%	34名 40.0%	57名 23.9%	58名 15.5%
	(訪問終了 時) a		0 0.0%	11 9.8%	3 7.3%	24 28.2%	38 16.0%	38 10.2%
	(訪問後改 善) b-a		1 0.7%	5 4.5%	4 9.8%	10 11.8%	19 8.0%	20 5.3%
質的向上	最高時		8 5.9%	13 11.6%			13 5.5%	21 5.6%
計	最高時		9 6.6%	29 25.9%	7 17.1%	34 40.0%	70 29.4%	79 21.1%

た。両者とも訪問指導終了時には既に著しい改善が認められている（その後低下していないことは確認している）。

「行なっていなかった」者では、53名中22名（41.5%）が向上しており、その内訳をみると、限定的自立に向上したものが9名（17.0%）、部分介助（一部実施）が13名（24.5%）であった。

以上のように5年前まで調理を実施していた者よりも、1年前まで実施していたものの方がすべてについてよい改善率を示した。これは行なわなかった期間が短ければ短いほど再び行ない始めることが容易であることを示していると考えられる。

（7）家事（洗濯）

洗濯の場合、「限定的自立」とは、例えば自分の分だけでも一連の行為として洗い、干し、収納していることとし、部分介助とは一連の洗濯動作の一部分（洗濯機を回す、取り込む、たたむ、収納するなど）のみを行っていることと定義した。

i) 5年前までの実施者

まず、5年前までの実施者について開始時と訪問指導終了時の変化をみたものが表9-1、開始時と最高時の変化が表9-2である。またこれらを開始時の自立度毎にまとめたものが表9-3である。

まず全体としての改善率を表9-3で見ると、訪問指導終了までに非自立152名中26名（17.1%）が改善しており、最高時には39名（25.7%）が改善していた。

また普遍的自立をしていない限定的自立以下の人201名中では訪問終了時点で26名（12.9%）が向上しており、更に質的向上者

5名（2.5%）を含めると最高時には42名（20.9%）が向上していた。

次に、開始時の自立度毎に、自立度の改善率をみると「限定的自立」であった者（49名）では、表9-1に示すように訪問指導終了時点でも、また表9-2で示すように最高時点でも1例も向上していなかった。

開始時「部分介助」者では51名中9名（17.6%）が「限定的自立」に自立していた。両者とも訪問指導終了時には既に著しい改善が認められている（その後低下していないことを確認している）。

「行なっていなかった」者では、101名中28名（27.8%）が向上しており、その内訳をみると、限定的自立に向上したものが14名（13.9%）、部分介助（一部実施）が14名（13.9%）であった。

ii) 1年前までの実施者

次に、1年前までの実施者について開始時と訪問指導終了時の変化をみたものが表10-1、開始時と最高時の変化が表10-2である。またこれらを開始時の自立度毎にまとめたものが表10-3である。

まず全体としての改善率を表10-3で見ると、訪問指導終了までに非自立者108名中21名（19.4%）が改善しており、更に質的向上者2名（1.9%）を含めると最高時には34名（31.5%）が向上していた。

また普遍的自立をしていない限定的自立以下の人157名中では訪問終了時点で21名（13.4%）が向上しており、更に質的向上者4名（2.5%）を含めると最高時には36名（22.9%）が向上していた。

表 7-1 調理に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果
-開始時と訪問指導終了時の比較：古くとも5年前までは調理を行っていた人

終了時 開始時	0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	計
0: 普遍的自立	1名 100%	0名	0名	0名	0名	1名 100%
1: 限定的自立	0	48 100%	0	0	0	48 100%
2: 部分介助	0	6 10.9%	49 89.1%	0	0	55 100%
3: 全介助	0	0	0	0	0	0
4: 行ってない	0	5 5.4%	12 12.9%	0	76 81.7%	93 100%
計	1 0.5%	59 29.9%	61 31.0%	0 0.0%	76 38.6%	197 100%

表 7-2 調理に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果
-開始時と最高時の比較：古くとも5年前までは調理を行っていた人

最高時 開始時	0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	計
0: 普遍的自立	1名 100%	0名	0名	0名	0名	1名 100%
1: 限定的自立	0	48 100%	0	0	0	48 100%
2: 部分介助	0	8 14.5%	47 85.5%	0	0	55 100%
3: 全介助	0	0	0	0	0	0
4: 行ってない	0	9 9.7%	16 17.2%	0	68 73.1%	93 100%
計	1 0.5%	65 33.0%	63 32.0%	0 0.0%	68 34.5%	197 100%

表 7-3 調理に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果のまとめ
：古くとも5年前までは調理を行っていた人

開始時 自立度 人数	0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	改善率	
						改善者/ 非自立 者 2-4 (N=148)	改善者/ 限定的 自立以 下 1-4 (N=196)
自立度	最高時 b	0名 0.0%	8名 14.5%	0名 0.0%	25名 26.9%	33名 22.3%	33名 16.8%
	(訪問終了 時) a	0 0.0%	6 10.9%	0 0.0%	17 18.3%	23 15.5%	23 11.7%
	(訪問後改 善) b-a	0 0.0%	1 1.8%	0 0.0%	2 2.2%	3 2.0%	3 1.5%
質的向上	最高時	6 12.5%	4 7.3%			4 2.7%	10 5.1%
計	最高時	6 12.5%	12 21.8%	0 0.0%	25 26.9%	37 25.0%	43 21.9%

表 8-1 調理に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果
-開始時と訪問指導終了時の比較：古くとも1年前までは調理を行っていた人

終了時 開始時	0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	計
0: 普遍的自立	1名 100%	0名	0名	0名	0名	1名 100%
1: 限定的自立	0	48 100%	0	0	0	48 100%
2: 部分介助	0	6 11.1%	48 88.9%	0	0	54 100%
3: 全介助	0	0	0	0	0	0
4: 行ってない	0	5 9.4%	9 17.0%	0	39 73.6%	53 100%
計	1 0.6%	59 37.8%	57 36.5%	0 0.0%	39 25.0%	156 100%

表 8-2 調理に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果
-開始時と最高時の比較：古くとも1年前までは調理を行っていた人

最高時 開始時	0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	計
0: 普遍的自立	1名 100%	0名	0名	0名	0名	1名 100%
1: 限定的自立	0	48 100%	0	0	0	48 100%
2: 部分介助	0	8 14.8%	46 85.2%	0	0	54 100%
3: 全介助	0	0	0	0	0	0
4: 行ってない	0	9 17.0%	13 24.5%	0	31 58.5%	53 100%
計	1 0.6%	65 41.7%	59 37.8%	0 0.0%	31 19.9%	156 100%

表 8-3 調理に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果のまとめ
：古くとも1年前までは調理を行っていた人

開始時 自立度 人数		0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	改善率	
		1名	48名	54名	0名	53名	改善者/ 非自立 者 2-4 (N=107)	改善者/ 限定的 自立以 下 1-4 (N=155)
自立度	最高時 b		0名 0.0%	8名 14.8%	0名 0.0%	22名 41.5%	30名 28.0%	30名 19.4%
	(訪問終了 時) a		0 0.0%	6 11.1%	0 0.0%	14 26.4%	20 18.7%	20 12.9%
	(訪問後改 善) b-a		0 0.0%	2 3.7%	0 0.0%	8 15.1%	10 9.3%	10 6.5%
質的向 上	最高時		4 8.3%	4 7.4%			4 3.7%	8 5.2%
計	最高時		4 8.3%	12 22.2%	0	22 41.5%	34 31.8%	38 24.5%

表 9-1 洗濯に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果
-開始時と訪問指導終了時の比較：古くとも5年前までは洗濯を行っていた人

終了時 開始時	0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	計
0: 普遍的自立	1名 100%	0名	0名	0名	0名	1名 100%
1: 限定的自立	0	49 100%	0	0	0	49 100%
2: 部分介助	0	6 11.8%	45 88.2%	0	0	51 100%
3: 全介助	0	0	0	0	0	0
4: 行ってない	0	9 8.9%	11 10.9%	0	81 80.2%	101 100%
計	1 0.5%	64 31.7%	56 27.7%	0 0.0%	81 40.1%	202 100%

表 9-2 洗濯に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果
-開始時と最高時の比較：古くとも5年前までは洗濯を行っていた人

最高時 開始時	0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	計
0: 普遍的自立	1名 100%	0名	0名	0名	0名	1名 100%
1: 限定的自立	0	49 100%	0	0	0	49 100%
2: 部分介助	0	9 17.6%	42 82.4%	0	0	51 100%
3: 全介助	0	0	0	0	0	0
4: 行ってない	0	14 13.9%	14 13.9%	0	73 72.3%	101 100%
計	1 0.5%	72 35.6%	56 27.7%	0 0.0%	73 36.1%	202 100%

表 9-3 洗濯に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果のまとめ
：古くとも5年前までは洗濯を行っていた人

開始時 自立度 人数		0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	改善率	
		1名	49名	51名	0名	101名	改善者/ 非自立者 2-4 (N=152)	改善者/ 限定的 自立以下 1-4 (N=201)
自立度	最高時 b		0名 0.0%	9名 17.6%	0名 0.0%	28名 27.7%	37名 24.3%	37名 18.4%
	(訪問終了 時) a		0 0.0%	6 11.8%	0 0.0%	20 19.8%	26 17.1%	26 12.9%
	(訪問後改 善) b-a		0 0.0%	3 5.9%	0 0.0%	8 7.9%	11 7.2%	11 5.5%
質的向上	最高時		3 6.1%	2 3.9%			2 1.3%	5 2.5%
計	最高時		3 6.1%	11 21.6%	0	28 27.7%	39 25.7%	42 20.9%

次に、開始時の自立度毎に、自立度の改善率をみると「限定的自立」であった者(49名)では、表10-1に示すように訪問指導終了時点でも、また表10-2で示すように最高時点でも1例も向上していなかった。

開始時「部分介助」者では51名中9名(17.6%)が限定的自立に自立していた。両者?とも訪問指導終了時には既に著しい改善が認められている(その後低下していないことを確認している)。

「行なっていなかった」者では、57名中23名(41.2%)が向上しており、その内訳をみると、限定的自立に向上したものが14名(26.5%)、部分介助(一部実施)が9名(14.7%)であった。

以上のように5年前まで洗濯を実施していた者よりも、1年前まで実施していたの方がすべてについてよい改善率を示した。これは行なわなかった期間が短ければ短いほど再び行ない始めることが容易であることを示していると考えられる。しかも洗濯は調理に比べ限定的自立の改善が著しい。

(8) 家事(掃除)

掃除の場合、「限定的自立」とは、場所や範囲が限定されている場合(自室のみ、等)とし、「部分介助」とは時々しかしていず、家族等がかわりに掃除することがあることと定義した。

i) 5年前までの実施者

まず、5年前までの実施者について開始時と訪問指導終了時の変化をみたものが表11-1、開始時と最高時の変化が表11-2である。またこれらを開始時の自立度毎にまとめたものが表11-3である。

まず全体としての改善率を表11-3で見ると、訪問指導終了までに非自立者145名中18名(12.4%)が改善していたが、更に質的向上的向上者3名(2.1%)を含めると最高時には30名(20.7%)が向上していた。

また普遍的自立をしていない限定的自立以下の人184名中では訪問終了時点で18名(9.8%)が向上しており、更に質的向上者6名(3.2%)を含めると最高時には33名(17.9%)が向上していた。

次に、開始時の自立度毎に、自立度の改善率をみると「限定的自立」であった者(39名)では、表11-1に示すように訪問指導終了時点でも、また表11-2で示すように最高時点でも1例も向上していなかった。

開始時「部分介助」者では36名中5名(13.9%)が「限定的自立」に自立していた。両者?とも訪問指導終了時には既に著しい改善が認められている(その後低下していないことを確認している)。

「行なっていなかった」者では、109名中22名(20.2%)が向上しており、その内訳をみると、限定的自立に向上したものが13名(11.9%)、部分介助(一部実施)が9名(8.3%)であった。

ii) 1年前までの実施者

次に、1年前までの実施者について開始時と訪問指導終了時の変化をみたものが表12-1、開始時と最高時の変化が表12-2である。またこれらを開始時の自立度毎にまとめたものが表12-3である。

まず全体としての改善率を表12-3で見ると、訪問指導終了までに非自立者92名中17名(18.5%)が改善していたが、更に質的向上的向上者2名(2.2%)を含める

表 10-1 洗濯に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果
-開始時と訪問指導終了時の比較：古くとも1年前までは洗濯を行っていた人

終了時 開始時	0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	計
0: 普遍的自立	1名 100%	0名	0名	0名	0名	1名 100%
1: 限定的自立	0	49 100%	0	0	0	49 100%
2: 部分介助	0	6 11.8%	45 88.2%	0	0	51 100%
3: 全介助	0	0	0	0	0	0
4: 行ってない	0	9 16.7%	6 10.8%	0	42 72.5%	57 100%
計	1 0.7%	64 40.8%	51 33.8%	0 0.0%	42 24.7%	158 100%

表 10-2 洗濯に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果
-開始時と最高時の比較：古くとも1年前までは洗濯を行っていた人

最高時 開始時	0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	計
0: 普遍的自立	1名 100%	0名	0名	0名	0名	1名 100%
1: 限定的自立	0	49 100%	0	0	0	49 100%
2: 部分介助	0	9 17.6%	42 82.4%	0	0	51 100%
3: 全介助	0	0	0	0	0	0
4: 行ってない	0	14 26.5%	9 14.7%	0	34 58.8%	57 100%
計	1 0.7%	72 46.2%	51 33.1%	0	34 20.1%	158 100%

表 10-3 洗濯に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果のまとめ
：古くとも1年前までは洗濯を行っていた人

開始時 自立度 人数		0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	改善率	
		1名	49名	51名	0名	57名	改善者/ 非自立 者 2-4 (N=108)	改善者/ 限定的 自立以 下 1-4 (N=157)
自立度	最高時 b		0名 0.0%	9名 17.6%	0名 0.0%	23名 40.4%	32名 29.6%	32名 20.4%
	(訪問終了 時) a		0 0.0%	6 11.8%	0 0.0%	15 26.3%	21 19.4%	21 13.4%
	(訪問後改 善) b-a		0 0.0%	3 5.9%	0 0.0%	8 14.0%	11 10.2%	11 7.0%
質的向上	最高時		2 4.1%	2 3.9%			2 1.9%	4 2.5%
計	最高時		2 4.1%	11 21.6%	0	23 40.4%	34 31.5%	36 22.9%

と最高時には27名(29.3%)が向上していた。

また普遍的自立をしていない限定的自立以下の131名中では訪問終了時点で17名(13.0%)が向上しており、更に質的向上的向上者5名(3.8%)を含めると最高時には30名(22.9%)が向上していた。

次に、開始時の自立度毎に、自立度の改善率をみると「限定的自立」であった者(39名)では、表12-1に示すように訪問指導終了時点でも、また表12-2で示すように最高時点でも1例も向上していなかった。

開始時「部分介助」者では36名中3名(8.3%)が限定的自立に自立していた。両者とも訪問指導終了時には既に著しい改善が認められている(その後低下していないことを確認している)。

「行なっていなかった」者では、56名中20名(35.7%)が向上しており、その内訳をみると、限定的自立に向上したものが12名(21.4%)、部分介助(一部実施)が8名(14.3%)であった。

以上のように5年前まで掃除を実施していた者よりも、1年前まで実施していたものの方がすべてについてよい改善率を示した。これは行なわなかった期間が短ければ短いほど再び行ない始めることが容易であることを示していると考えられる。しかも掃除は洗濯と同様に限定的自立(場所や範囲が限定されている)の改善が著しい。

(9) 活動向上のまとめ

以上の結果をまとめて、各活動毎に自立度を最高時と訪問指導終了時との2時点で、また最高時の質の向上、そして最高時自立度と質の向上の合計を示したものを表13に示す。

全般的にみてまずいえるのは水際作戦の効

果が非常に大きいことである。「普遍的自立」者においてはそれ以上の向上はありえないので、それを除いた「限定的自立」以下の群における総合的改善率(最高時自立度向上プラス質的向上)について「活動」の種別に比較すると、最もよいのは屋外歩行の53.4%であり、ついで屋内歩行の39.7%である。

それ以外のADL(身の回り行為)においては歩行には及ばないが、それでも排泄は15.1%、入浴21.1%、整容9.7%と一定の効果がみられている。

先に述べたように活動の8項目中何らかの項目で自立度向上が認められた者は56.5%、質的向上者は35.0%、合計91.5%(345名)で何らかの活動向上が達成できており、「活動」低下に対する「水際作戦」の効果は非常に大きいといえることができる。

なお、屋外歩行、屋内歩行、排泄、整容、入浴などの「活動」においては、開始時に「限定的自立」であった者は、訪問指導終了時点以後最高時までの間に向上する者が少なからずみられた。すなわち、限定的自立から普遍的自立に向上するには、訪問指導終了後の一定の期間を要していた。これは限定的自立者には短期間の適切な支援を行えば、その後は直接指導・訓練を実施しなくとも、普遍的自立にまで向上できることを示している。

一方家事に属する調理・洗濯・掃除において「限定的自立」であった者では、訪問指導終了時点以後の向上者がみられなかった。

(10) 活動の向上がみられなかった例についての検討

377名中、26名には活動の改善が認められなかった。その理由は、訪問指導後数日以内に入院した場合が4名いたが、それ以外は

表 11-1 掃除に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果
-開始時と訪問指導終了時の比較：古くとも5年前までは洗濯を行っていた人

終了時 開始時	0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	計
0: 普遍的自立	2名 100%	0名	0名	0名	0名	2名 100%
1: 限定的自立	0	39 100%	0	0	0	39 100%
2: 部分介助	0	3 8.3%	33 91.7%	0	0	36 100%
3: 全介助	0	0	0	0	0	0
4: 行ってない	0	7 6.4%	8 7.3%	0	94 86.2%	109 100%
計	2 1.1%	49 26.3%	41 22.0%	0 0.0%	94 50.5%	186 100%

表 11-2 掃除に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果
-開始時と最高時の比較：古くとも5年前までは洗濯を行っていた人

最高時 開始時	0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	計
0: 普遍的自立	2名 100%	0名	0名	0名	0名	2名 100%
1: 限定的自立	0	39 100%	0	0	0	39 100%
2: 部分介助	0	5 13.9%	31 86.1%	0	0	36 100%
3: 全介助	0	0	0	0	0	0
4: 行ってない	0	13 11.9%	9 8.3%	0	87 79.8%	109 100%
計	2 1.1%	57 30.6%	40 21.5%	0 0.0%	87 46.8%	186 100%

表 11-3 掃除に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果のまとめ
：古くとも5年前までは掃除を行っていた人

開始時 自立度 人数		0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	改善率	
		2名	39名	36名	0名	109名	改善者/ 非自立 者 2-4 (N=145)	改善者/ 限定的 自立以 下 1-4 (N=184)
自立度	最高時 b		0名 0.0%	5名 13.9%	0名 0.0%	22名 20.2%	27名 18.6%	27名 14.6%
	(訪問終了 時) a		0 0.0%	3 8.3%	0 0.0%	15 13.8%	18 12.4%	18 9.8%
	(訪問後改 善) b-a		0 0.0%	2 5.6%	0 0.0%	7 6.4%	9 6.2%	9 4.9%
質的向上	最高時		3 7.7%	3 8.3%			3 2.1%	6 3.2%
計	最高時		3 7.7%	8 22.2%	0	22 20.2%	30 20.7%	33 17.9%

表 12-1 掃除に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果
-開始時と訪問指導終了時の比較：古くとも1年前までは掃除を行っていた人

終了時 開始時	0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	計
0: 普遍的自立	2名 100%	0名	0名	0名	0名	2名 100%
1: 限定的自立	0	39 100%	0	0	0	39 100%
2: 部分介助	0	3 8.3%	33 91.7%	0	0	36 100%
3: 全介助	0	0	0	0	0	0
4: 行ってない	0	7 12.5%	7 12.5%	0	42 75.0%	56 100%
計	2 1.5%	49 36.8%	40 30.1%	0 0.0%	42 31.6%	133 100%

表 12-2 掃除に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果
-開始時と最高時の比較：古くとも1年前までは掃除を行っていた人

最高時 開始時	0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	計
0: 普遍的自立	2名 100%	0名	0名	0名	0名	2名 100%
1: 限定的自立	0	39 100%	0	0	0	39 100%
2: 部分介助	0	5 13.9%	31 86.1%	0	0	36 100%
3: 全介助	0	0	0	0	0	0
4: 行ってない	0	12 21.4%	8 14.3%	0	36 64.3%	56 100%
計	2 1.5%	56 42.1%	39 29.3%	0 0.0%	36 27.1%	133 100%

表 12-3 掃除に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果のまとめ
：古くとも1年前までは掃除を行っていた人

開始時 自立度 人数		0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介 助	3: 全介助	4: 行って いない	改善率	
		2名	39名	36名	0名	56名	改善者/ 非自立 者 2-4 (N=92)	改善者/ 限定的 自立以下 1-4 (N=131)
自立度	最高時 b		0名 0.0%	5名 13.9%	0名 0.0%	20名 35.7%	25名 27.2%	25名 19.1%
	(訪問終了 時) a		0 0.0%	3 8.3%	0 0.0%	14 25.0%	17 18.5%	17 13.0%
	(訪問後改 善) b-a		0 0.0%	2 5.6%	0 0.0%	6 10.7%	8 8.7%	8 6.1%
質的向上	最高時		3 7.7%	2 5.6%			2 2.2%	5 3.8%
計	最高時		3 7.7%	7 19.4%	0	20 35.7%	27 29.3%	30 22.9%

表 13 「活動」に関する生活機能相談窓口における水際作戦の効果のまとめ
 -最高時・訪問指導終了時の自立度向上者および質的向上者：活動項目毎

開始時 自立度		0: 普遍的 自立	1: 限定的 自立	2: 部分介助	3: 全介助	4: 行ってい ない	改善率	
							改善者/ 非自立者 2-4	改善者/ 限定的 自立以下 1-4
屋外歩行	自立度向上者 (訪問終了時)		25.7% (0.0%)	21.7% (15.0%)	7.1% (7.1%)	60.0% (39.1%)	37.3% (25.0%)	34.1% (18.2%)
	質的向上者		25.7%	31.7%	25.0%		16.8%	19.2%
	計		51.5%	53.3%	32.1%	60.0%	54.1%	53.4%
自宅内歩行	自立度向上者 (訪問終了時)		11.1% (0.0%)	30.2% (15.9%)	27.3% (9.1%)	44.0% (32.0%)	33.3% (19.2%)	17.2% (5.3%)
	質的向上者		24.9%	25.4%			16.2%	22.5%
	計		36.0%	55.6%	27.3%	44.0%	49.5%	39.7%
排泄	自立度向上者 (訪問終了時)		3.8% (0.0%)	21.3% (10.7%)	25.0% (25.0%)	76.9% (50.0%)	35.2% (21.0%)	12.7% (5.9%)
	質的向上者		1.9%	5.3%			3.8%	2.4%
	計		5.7%	26.7%	2.5%	76.9%	39.0%	15.1%
整容	自立度向上者 (訪問終了時)		1.6% (0.0%)	20.7% (10.9%)	16.7% (16.7%)	33.3% (26.7%)	20.8% (13.6%)	8.0% (4.6%)
	質的向上者		1.6%	2.2%			1.6%	1.6%
	計		3.2%	22.8%	16.7%	33.3%	22.4%	9.7%
入浴	自立度向上者 (訪問終了時)		0.7% (0.0%)	14.3% (9.8%)	17.1% (7.3%)	40.0% (28.2%)	23.9% (16.0%)	15.5% (10.2%)
	質的向上者		5.9%	11.6%			5.5%	5.6%
	計		6.6%	25.9%	17.1%	40.0%	29.4%	21.1%
家事(調理)<5年前までの実施者>	自立度向上者 (訪問終了時)		0.0% (0.0%)	14.5% (10.9%)		26.9% (18.3%)	22.3% (15.5%)	16.8% (11.7%)
	質的向上者		12.5%	7.3%			2.7%	5.1%
	計		12.5%	21.8%		26.9%	25.0%	21.9%
家事(調理)<1年前までの実施者>	自立度向上者 (訪問終了時)		0.0% (0.0%)	14.8% (11.1%)		41.5% (26.4%)	28.0% (18.7%)	19.4% (12.9%)
	質的向上者		8.3%	7.4%			3.7%	5.2%
	計		8.3%	22.2%		41.5%	31.8%	24.5%
家事(洗濯)<5年前までの実施者>	自立度向上者 (訪問終了時)		0.0% (0.0%)	17.6% (11.8%)		27.7% (19.8%)	24.3% (17.1%)	18.4% (12.9%)
	質的向上者		6.1%	3.9%			1.3%	2.5%
	計		6.1%	21.6%		27.7%	25.7%	20.9%
家事(洗濯)<1年前までの実施者>	自立度向上者 (訪問終了時)		0.0% (0.0%)	17.6% (11.8%)		40.4% (26.3%)	29.6% (19.4%)	20.4% (13.4%)
	質的向上者		4.1%	3.9%			1.9%	2.5%
	計		4.1%	21.6%		40.4%	31.5%	22.9%
家事(掃除)<5年前までの実施者>	自立度向上者 (訪問終了時)		0.0% (0.0%)	13.9% (8.3%)		20.2% (13.8%)	18.6% (12.4%)	14.6% (9.8%)
	質的向上者		7.7%	8.3%			2.1%	3.2%
	計		7.7%	22.2%		20.2%	20.7%	17.9%
家事(掃除)<1年前までの実施者>	自立度向上者 (訪問終了時)		0.0% (0.0%)	13.9% (8.3%)		35.7% (25.0%)	27.2% (18.5%)	19.1% (13.0%)
	質的向上者		7.7%	5.6%			2.2%	3.8%
	計		7.7%	19.4%		35.7%	29.3%	22.9%

家族の協力が得られなかったものである。介護が必要な状態の場合、自立度向上及び質的向上のためには、一定期間「している活動」（実行状況）レベルへの家族の適切な介護（「よくする介護」：声かけ・見守りも含む）が必要である。しかし、日中同居家族がいなかったり、老夫婦のみの家庭で配偶者が介護ができるような状態ではない場合には、そのような「よくする介護」が得られなかった。これらの人々には、このような目的達成のための一定期間の介護保険サービス利用による介護も提案したが、多くは経済的理由で利用を断念したものである。

他の改善例からみても、数日から数ヶ月という短期間の関与で向上できる場合がほとんどであるにもかかわらず、経済的理由で断念せざるを得なかったことは残念である。

3. 生活機能相談窓口の要介護度等に及ぼした効果

1) 要介護度の変化

生活機能相談窓口での対応後の要介護度の変化を、開始時に既に要介護認定を受けていた146名についてみた結果を表14-1に示す。低下・改善のなかに変化した要介護度の差を数値として記入している。

全体（146名）中改善者が25名（17.1%）であった。一方低下者は17名であり、これらは大腿骨頸部骨折、パーキンソン病による症状悪化、脳梗塞、腰痛増悪、うつ症状の出現、非定型抗酸菌症[？]による在宅酸素療法開始であった。

生活機能相談窓口利用後更新がまだの人

が14名（9.6%）、取り下げが2名（1.4%）死亡者が5名（3.4%）であり、これらを除いて更新をした人125名中での改善者は25名（20.0%）であった。変化なし（83名）をあわせて108名（86.4%）が維持・改善できていた。

生活機能相談窓口利用の契機となった生活機能低下のために、要介護認定の申請をしていた人は194名いた。これらは生活機能相談窓口の開始時に既に認定調査をうけており、これらについて要介護度の変化を調べた結果を表14-2に示す。

17名（8.8%）は、介護保険サービスを利用しようとしていた問題点が生活機能相談窓口の利用で解決されたために、認定申請を取り下げている。死亡や未更新をのぞいた117名中、改善・取り下げ者が45名（38.5%）であった。変化なし（63名）をあわせて108名（92.3%）が維持・改善できていた。

低下者が9名いるが、これらは認知症、大腿骨頸部骨折、メニエール病、うつ血性心不全の悪化、パーキンソン病の症状悪化であった。

2) 生活機能向上と要介護度変化との関係

生活機能向上の達成と要介護度の変化との関係をみたものを表15-1、15-2に示す。生活機能として活動の自立度と参加がともに向上している129名中、要介護認定の未更新者27名、非認定者16名、死亡4名、計47名をのぞく82名中改善者は17名、取り下げ4名と計21名（25.6%）であり、低下者は8名（9.8%）いたが、これらは全例一旦生活機能が向上後疾病の進行や出現がみられたものである。

表 14-1 生活機能相談窓口における水際作戦による要介護度変化
 -開始時要介護認定者(N=146)

実施前	低下				変化なし	改善				取り下げ	未更新	死亡	計
	-4	-3	-2	-1		1	2	3	4				
支援	0名 0.0%	0名 0.0%	0名 0.0%	1名 16.7%	3名 50.0%	0名 0.0%	0名 0.0%	0名 0.0%	0名 0.0%	0名 0.0%	2名 33.3%	0名 0.0%	6名 100%
支援1	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	4 57.1%	1 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 14.3%	0 0.0%	7 100%
支援2	0 0.0%	1 7.1%	1 7.1%	3 21.4%	5 35.7%	2 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 14.3%	0 0.0%	14 100%
1	2 3.6%	1 1.8%	2 3.6%	2 3.6%	39 70.9%	6 10.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.8%	2 3.6%	0 0.0%	55 100%
2	0 0.0%	0 0.0%	1 4.5%	0 0.0%	12 54.5%	3 13.6%	2 9.1%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.5%	3 13.6%	0 0.0%	22 100%
3	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 4.2%	12 50.0%	4 16.7%	1 4.2%	2 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 8.3%	2 8.3%	24 100%
4	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.1%	5 35.7%	2 14.3%	2 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 14.3%	2 14.3%	14 100%
5	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 25.0%	4 100%
計	2 1.4%	2 1.4%	5 3.4%	8 5.5%	83 56.8%	18 12.3%	5 3.4%	2 1.4%	0 0.0%	2 1.4%	14 9.6%	5 3.4%	146 100%

表 14-2 生活機能相談窓口における水際作戦による要介護度変化
 -開始時要介護認定新規申請者(N=194)

実施前	低下				変化なし	改善				取り下げ	未更新	死亡	計
	-4	-3	-2	-1		1	2	3	4				
取り下げ	0名 0.0%	0名 0.0%	0名 0.0%	0名 0.0%	0名 0.0%	0名 0.0%	0名 0.0%	0名 0.0%	0名 0.0%	17名 100%	0名 0.0%	0名 0.0%	17名 100%
非該当	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 100%	0 0.0%	3 100%
支援	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 6.9%	17 58.6%	1 3.4%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 31.0%	0 0.0%	29 100%
支援1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	2 100%
支援2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 8.3%	1 8.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	10 83.3%	0 0.0%	12 100%
1	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.6%	19 34.5%	6 10.9%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	26 47.3%	2 3.6%	55 100%
2	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	15 42.9%	7 20.0%	1 2.9%	1 2.9%	0 0.0%	0 0.0%	11 31.4%	0 0.0%	35 100%
3	0 0.0%	0 0.0%	1 4.5%	2 9.1%	5 22.7%	4 18.2%	0 0.0%	1 4.5%	0 0.0%	0 0.0%	8 36.4%	1 4.5%	22 100%
4	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 10.0%	3 30.0%	2 20.0%	1 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 20.0%	1 10.0%	10 100%
5	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 22.2%	1 11.1%	2 22.2%	0 0.0%	1 11.1%	0 0.0%	2 22.2%	1 11.1%	9 100%
計	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	8 4.1%	63 32.5%	21 10.8%	4 2.1%	2 1.0%	1 0.5%	17 8.8%	72 37.1%	5 2.6%	194 100%

以上から要介護度は改善しなくとも明らかに活動・参加が向上している者が多いといえる。これは要介護認定は主に心身機能レベルをみているため、活動・参加に直接働きかけることにより、活動・参加が向上しても生活機能の中の別のレベルである心身機能の効果としてはあらわれにくいものと考えられる。

要介護度が改善した例については、廃用症候群が進行する悪循環を良循環に転換でき、これにより心身機能が向上した可能性も考えられる。

なお開始時の要介護度と生活機能向上の関係をみたものが表 15-2 である。同じ要介護度でも、新規申請者と要介護認定からの

時間を経ている人では改善に差が認められる。新規申請者であれば要介護度 5 でも改善した者が 3 名 (33.3%) あった。これは早期に介入することによる改善が示唆された。

3) 生活機能低下後相談までの期間

「活動」としての屋内歩行もしくは屋外歩行が 1 段階低下してから相談までの期間を検討した結果が表 16 である。出現後 3 ヶ月以内に生活機能向上相談窓口を利用した 98 名中 47 名 (48.0%) が自立度・参加ともに向上が多く、6 ヶ月 40.2%、7 ヶ月～1 年 32.3%、1 年以上 14.4% と期間が長くなるほど率が低下している。逆に変化なしは期間が長いほど多くなる。

表 15-1 生活機能相談窓口における水際作戦の効果
—生活機能向上と要介護度変化との関係

活動		変化	低下				変化なし	改善				取り下げ	未更新	非認定申請者	死亡	計
自立度	質的向上	参加	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4					
↑		↑	2名 1.6 %	0名 0.0 %	3名 2.3 %	3名 2.3 %	53名 41.1 %	14名 10.9 %	1名 0.8 %	1名 0.8 %	1名 0.8 %	4名 3.1 %	27名 20.9 %	16名 12.4 %	4名 3.1 %	129名 100 %
	↑	↑	0 0.0 %	0 0.0 %	0 0.0 %	4 9.5 %	10 23.8 %	9 21.4 %	1 2.4 %	0 0.0 %	0 0.0 %	5 11.9 %	9 21.4 %	4 9.5 %	0 0.0 %	42 100 %
↑			0 0.0 %	0 0.0 %	3 3.6 %	2 2.4 %	38 45.2 %	6 7.1 %	7 8.3 %	3 3.6 %	0 0.0 %	5 6.0 %	16 19.0 %	1 1.2 %	3 3.6 %	84 100 %
	↑		0 0.0 %	0 0.0 %	0 0.0 %	4 4.4 %	31 34.4 %	10 11.1 %	0 0.0 %	0 0.0 %	0 0.0 %	4 4.4 %	27 30.0 %	12 13.3 %	2 2.2 %	90 100 %
		↑	0 0.0 %	0 0.0 %	0 0.0 %	0 0.0 %	4 66.7 %	0 0.0 %	0 0.0 %	0 0.0 %	0 0.0 %	1 16.7 %	0 0.0 %	1 16.7 %	0 0.0 %	6 100 %
変化なし			0 0.0 %	2 7.7 %	0 0.0 %	3 11.5 %	10 38.5 %	0 0.0 %	0 0.0 %	0 0.0 %	0 0.0 %	0 0.0 %	7 26.9 %	3 11.5 %	1 3.8 %	26 100 %
計			2 0.5 %	2 0.5 %	6 1.6 %	16 4.2 %	146 38.7 %	39 10.3 %	9 2.4 %	4 1.1 %	1 0.3 %	19 5.0 %	86 22.8 %	37 9.8 %	10 2.7 %	377 100 %